

岡 田 宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 7 号

昭和63年11月吉日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号 806
電話 621-1898

岡田宮と厄除やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十才、三十四才、三十七才、四十才、四十二才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才は大厄(本厄)といわれ、それぞれ各前年を前厄(厄入)、後年を後厄(厄晴)といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、人生の折目だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手だてを講じます。それが「厄ばらい」です。厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをつけましょう。北九州の古社である当岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。皆様方おそろいで御参拝下さいます様御案内申し上げます。

新年度の厄年

厄年(男)		厄年(女)	
二十四才前厄	昭和四十二年生	十八才前厄	昭和四十七年生
二十五才大厄	四十一年生	十九才大厄	四十六年生
二十六才後厄	三十九年生	二十才後厄	四十五年生
四十一才前厄	二十四年生	三十二才前厄	二十三年生
四十二才大厄	二十三年生	三十三才大厄	三十二年生
四十三才後厄	二十一年生	三十四才後厄	三十一年生
六十才前厄	五年生	二十六才前厄	二十九年生
六十一才大厄	四年生	三十七才大厄	二十八年生
六十二才後厄	三年生	三十八才後厄	二十七年生

● 厄除大祭 二月節分日

※年齢はかぞえ年です。

神社 なぜ なぜ 問答

(その6)



問 地鎮祭とはどんな祭ですか、またどうすれば良いでせうか。

若松高須西 桑原 剛

答 建物を新築したり、土木工事などを始めるとき、その土地の神様をお招きして、工事の安全と、その土地の平安を祈り、併せて発展と感謝を祈念する祭りです。此の大地は勿論のこと、草木、小さな虫から動物に至るまで、この太陽と、この土地、そしてあらゆる大自然の現像は、神々の恵によるものです。

大地を守護される大地主神、そしてこの地域を常日頃から守って下さっている産土神等をお招きして私たちの生活の平安と繁栄をお願し神様のお恵をいただく

うと大昔から日本の国に伝っているお祭りです。お祭の順序については、だいたい次の通りです。

(1) 修祓 此のお祭に参加されている方々全部のお清めを行います。

(2) 降神 神様のお越をお願する。

(3) 献饌 神様にお供物を差上げる。

(4) 祝詞奏上 神職が地鎮祭の主旨に添ってお願と感謝の言葉を述べる。

(5) 散供 神職が切麻や、お米、お塩等を散いてお祓します。

(6) 刈初・穿初 建築主・施工者等が盛砂の上にある草を刈る所作や、土を穿ち、抗を打つ等の所作をします。

(7) 玉串拝礼 参列者が神前に玉串を捧げ

二拝二拍手一拝します。

(8) 撤饌 神前のお供えや、お酒を下げ

る。

(9) 昇神 招きした神様が歸られる。

(10) 直会 神様にお供えしたお神酒を皆で頂き、身心共に御恵を受けて、工事に着手します。

尚、地鎮祭をするにはいろく／＼と舗設するものがありますから、お宮の神職に相談して詳しいことを聞いて下さい。

問 お守とお札とはどこが違うのですか、また、大麻とは何ですか。

八幡高校 西野 司

答 簡単に言ってお守とは肌につけて持ち歩くものです。お札は家にお祭りしてお仕申す神様のお宿です。お札はお守より大きいので、肌につけて持歩くのに不便です。そこで小さく作っていただき肌につけてお守り願う意味から「肌守」と言うようになりました。

又、大麻とはオオヌサと読みます。これは八産置神事と言ってお祓詞を千度唱

えたものや、万度唱えたものがありました。

その数取りに麻苧アサオを使いました。これを神様の形代として一般家庭に頒布したことから、大麻オホアサと言うようになりました。これは一切の罪穢ツミを除去する呪力スクリキがあるものとして崇められ遂に神符の一種として取扱うようになりました。

神社等に於きまして祭事に祓具ハヒモノとして紙垂シタリに麻苧を取添えたものを使ってお清めをいたします。これを大麻神事と言っています。

いずれにしても神事の最高最大を尽して勤修申したものですから、単に「物」として取扱わず神霊の籠った神々の形代と考え大切に取扱って下さい。必ずや、ご守護頂けること、間違いありません。

参考書

神社公報

神道大辞典

神事解説

日本の神話

① 黄泉の国

日本の国土ができる前、伊邪那岐命と伊邪那美命は多くの神さまを生み出したところから、最後に火の神さまを生むと、伊邪那美命は大火傷を負って亡くなってしまいました。

悲しきあまり伊邪那岐命は、死者の国である黄泉の国へ伊邪那美命を連れもどしに出かけていきました。しかし、黄泉の国の食事をしてしまった伊邪那美命はもうもとの国には帰れません。伊邪那岐命が迎えにきたことを知った伊邪那美命は、くれぐれも自分の姿を見ないよう、伊邪那岐命にいい残し、黄泉の国の神さまのもとへ相談に行きました。

もうどれくらいたつたことでしょうか。待ちきれなくなった伊邪那岐命は、髪にさしていた櫛をとって火をともし、辺りを見回しました。何としたことでしょうか。妻の姿が見るも恐ろしい姿となって、そ



こに横たわっているではありませんか。あまりの恐ろしさに、伊邪那岐命は逃げだしてしまいました。自分の姿を見られた伊邪那美命は、髪を振り乱しそのあとを追いかけてきました。

黄泉の国の入口まで逃げてきた伊邪那岐命は、大きな岩でその入口をふさいでしまいました。伊邪那美命は自分を見ないという約束が破られたことを悔しがり、「あなたの国の人を一日に千人殺してしまおう」といいました。これに対して伊邪那岐命は、「それならば、私は一日に千五百人の人を生もう」と告げました。それ以来、一日に多数の人が死に、より多くの人が生まれるようになったという事です。

(神社本庁)

